

## メダカの保護を主とした篠山市今田地域での環境学習

浅田智広・大江 健（篠山市立今田小学校）

### はじめに

篠山市立今田小学校は篠山市の南に位置し、日本六古窯丹波焼の郷として知られている。旧今田町ではサギソウを町花としていて、全校をあげてサギソウの保護活動をしている。

また、本校4年生は環境教育の一環として総合的な学習の時間でメダカとカスミサンショウウオも育てている。カスミサンショウウオは絶滅危惧種であり、メダカも近年数を減らしていることが知られている。今回メダカの保護を主とした総合的な学習の取り組みを紹介する。

### 活動内容

#### ①メダカは今田にいるのかな？

4月の終わりごろ「近年、メダカが減っている」という記事を紹介し、「今田のメダカは減っているのか。」という問いをした。ほとんどの子が川にたくさんいると思っていたが、ゴールデンウィークに保護者の協力も得て、実際に探してみると川やため池でメダカを見つけることはできなかった。メダカだと思って取ってきた小魚を調べてみると、メダカではなく他の魚の稚魚であったりと、メダカが見つかったのは1か所だけであった。

#### ②メダカを育てよう。

唯一見つけたメダカを育てるために、子どもたちは図鑑やインターネットでメダカの飼育方法を調べ、たまごを産ませ、稚魚を育てる環境作りをした。6月になり、水温が上がってくるとメダカはたまごを産み始め、たくさんの稚魚をかえすことができた。

#### ③カスミサンショウウオを育てよう。

今田小学校では10年前から4、5年生がカスミサンショウウオを育てて、自然にかえす活動を行っている。カスミサンショウウオは絶滅が危惧されている生き物で兵庫県のレッドデータブックにも指定されている。今田でもカスミサンショウウオの生息が確認されているのは1か所のみである。子どもたちはふ化したカスミサンショウウオの幼生を1人1匹育てている。一番大変なのがエサ取りである。カスミサンショウウオはボウフラやミジンコなど生きたものしか食べないと言われており（実際には冷凍アカムシなども食べる）毎日のようにスポイトとペットボトルをもって学校のあらゆる場所でエサ取りを行っている。4月から7月まで世話をすると、ほとんどのカスミサンショウウオが手足が付いて陸に上がってくる。そして、カスミサンショウウオの卵があった場所にいき、放流している。

#### ④メダカが減っていることを知ってもらおう。

メダカが減っていることをたくさんの人に知ってもらうために篠山市最大の祭り「デカンショ祭り」に出場して、地域の人や観光客にアピールすることになった。メダカとカスミサンショウウオを子どもたちがかわいくデザインし、それを参考にして保護者である窯元さんに石膏で型を作っていただいた。丹波焼に使う土はアルミ缶集めで得たお金で買うことにした。型に土を詰めて作製するのは想像していたより難しく、きれいに作品が型から抜けなかったり、ひび割れができてしまったりと試行錯誤の連続であった。しかし、何度も行ううちにコツがつかめ完成度の高い作品へと仕上がっていった。焼成については、窯元さんの協力をいただくことができ、今田小4年生オリジナルの丹波焼「メダカ・カスミサンショウウオのマグネット」が完成した。当日は、2時間の販売時間を予定していたが、販売時間の終了を待たずに250個すべてが完売した。



【マグネットはしおき完売】

また、販売ブースにはメダカやカスミサンショウウオの生態、及び今田小の取り組みを掲示して観光客に見ていただいた。その日に行われたデカンショ祭りJ r 競演会でもメダカ・カスミサンショウウオの動きをアレンジした踊りで、3位入賞することができた。

#### ⑤メダカの放流ポイントを探そう。

デカンショ祭りで得た資金をもとに様々な活動を展開することにした。まず、今、育てているメダカを放流するための場所を探すために、今田内の川やため池を調査した。調査内容は、水質（パックテストCOD）、水温、天敵の有無、水の流れ、水草の有無などである。さらに、冬の間ため池の水が涸れないかどうかもち主を確認した。その調査結果をもとにしてどの場所なら放流できるかを話し合い、自分たちの考察をまとめた。その上で、人と自然の博物館田中先生にアドバイスをいただき、放流ポイントを決定した。

結果は以下の通りである。

源戸池・・・冬の水涸れもなく、広さも十分であり、水草もある。しかし、ブラックバスがいることが後で判明し、放流は不可となった。

今田新田のため池・・・冬の水涸れもなく、広さは運動場の半分ぐらい。水草は充分あり、天敵は見つからない。

放流は可能である。

釜屋のため池・・・広さ、水質とも十分である。冬は少し水が減るが、無くなることはない。水草は十分で天敵もない。放流は可能である。

四斗谷川・・・水質、水草は十分である。しかし、外来魚はいる可能性がある。さらに石がごろごろした川なのでメダカが住むには適さない。放流は不可である。

#### ⑥わたしたちの活動を知ってもらおう。

地区内にあるデイサービスセンターや保育園、幼稚園を訪問し、メダカが減っていることを伝える劇をしたり、メダカのクイズをしたりしてメダカに親しんでもらった。デイサービスセンターでは、お年寄りから昔のメダカの様子やメダカを捕って遊んだことを教えていただいた。中には「メダカを食べると泳ぎがうまくなる」と言われていたと話してくれるお年寄りもいた。保育園では、ヒメダカを飼っていたので、園児は野生のクロメダカが黒い色をしていることにびっくりしていた。幼稚園でも「メダカを飼いたい」と言ってくれる子がいた。

#### ⑦ビオトープを作ろう

学校内の池をメダカが安心して住めるビオトープにすることにした。天敵がないかチェックし、ビオトープに住む生き物を紹介した看板を立て、観察するための橋も設置した。今育てている稚魚の一部をビオトープに放すことで、全校生にも今田のメダカを知ってもらえるように考えた。

#### おわりに

地域を舞台にしてメダカ・カスミサンショウウオの保護活動を軸に環境教育を進めた。身近な生き物であるメダカであるが実際に調査したり、飼育したりするとさまざまな課題もたくさん見つかった。しかし、それらを一一つ解決していくことは、児童にとっても大きな学びであった。ただ、環境教育を進める上で指導者もそれらのことに精通している必要があり、まだまだ学ばなければならないことが多いことも感じさせられた。



【水中生物の採取】



【デイサービスセンターで】